

欠

性寒胃、糖尿病、黴毒等モ亦齒根誤炎ノ成立上一定ノ關係ヲ有ス

○慢性齒槽膿瘍ノ治療法如何

慢性齒槽膿瘍ノ治療法ハ齒牙硬組織ノ破壞程度、根端部病竈ノ廣柔、瘻管瘻孔ノ有無及治療經過等ニ從ツテ一様ナラズ通常先ヅ藥物的療法乃至根管通過法ヲ試ミ若シ奏効セザレバ初メテ齒根切除術又ハ齒牙再植術ヲ施行スルニアリ、如斯處置ヲ施セルニモ拘ラズ治癒セザルカ齒牙硬組織ノ破壞程度顯著ニシテ既ニ充填法乃至繼續法ニ堪エザルモノハ拔去ノ他ナシ

一 藥物的療法

髓腔穿通根管洗滌法並ニ根管消毒法ヲ行ヘル後根管ヲ介シテ根端部ノ膿瘍竈ニ沃度「グリセロール」又ハ「クロールフェノールカンファア」ヲ作用セシム、通常二三日毎ニ反復シテ二三度ニ及ビ何等不快ナル變調ヲ認メザレバ糊劑ノ如キヲ充填ス然ルニ若シ有膿瘍ナルトキハ此際尙根管通過法ヲ行フコトアリ

二 根管通過法

三 齒根切除術

先ツ注射器ヲ以テ滅菌セル生理的食鹽水ヲ根管ヨリ注入シ瘻孔ヨリ流出スルヲ確定シタル後沃度「グリセロール」又ハ「キヤンフォエニツク」ノ如キヲ通過セシメテ殺菌並ニ真性肉芽組織ノ新生ヲ促進シ第二回治療以後ハ腐蝕性ナキ「チノゾール」水又ハ過酸化水素水等ヲ用フ

又瘻孔ノ有無ヲ問ハズ膿嚢乃至根管内ニ根管通過法ト同一方法ヲ以テ「マイルホー」フアー氏沃度「ホルム」糊劑又ハ「ベツク」氏膏鉛糊劑ヲ注入スルコトアリ

以上ノ諸法ニヨルモ尙奏効セズシテ瘻孔ヨリ排膿歇マザルカ其他ニ遠相等存在スル時ハ通常前方ノ齒牙ニアリテハ齒根切除術ニ從ヒ後方ノ齒牙ナル時ハ齒牙再植術ヲ以テ處置ス

- (1) 一般ニ根管治療法ニ從ヒ根管充填法ヲ終レル後左ノ順序ニヨリテ處置ス
- (2) 局所麻酔 「コカイン」又ハ「ノグオカイン」ノ骨膜下注射法乃至傳達麻酔法ヲ行フ

- (1) 齒齦ノ弓狀切開 處置容易ナル唇頰側又ハ口蓋側齒齦部ニ隣接齒ニ亘リテ基

四 齒牙再植術

- (1) 底ヲ根尖ニ向ケ且齒齦縁ヲ齒ル約一仙迷ノ部位ニ弓狀切開ヲ施シ次テ齒齦骨膜辨ヲ剝離シ創鉤ヲ以テ牽引轉轉ス
- (2) 齒槽壁ノ穿孔 「ピア」又ハ鑿ヲ以テ骨壁ヲ除去ス
- (3) 膿瘍嚢乃至肉芽塊ノ搔爬(把)銳匙ヲ以テ全部ヲ除去ス
- (4) 齒根端ノ處置 「ピア」又ハ鑿ヲ以テ根端部ヲ滑澤トナシ尙必要ニ應ジ根端ノ一部ヲ切除シテ肉芽ノ除去ヲ完全ナラシムルコトアリ
- (5) 辨ノ縫合 手術創ヲ其マ、或ハ沃度「フォルム」骨充填材ヲ容レテ二三ヶ所縫合ス
- (6) 後處置 防腐性含嗽料ヲ與ヘテ口腔ノ清掃ヲ守ラシムベシ、由之創傷ハ二週日ヲ出テズシテ治癒スルニ至ル

- (1) 齒牙ノ拔去 齒牙ハ齒石除去過酸水素水ニテ清拭後局所麻酔ノ下ニ拔去シ即時再植時ハ過生理的食鹽水中ニ間隔再植時ハ二%石炭酸水中ニ保存ス而シテ拔齒創ハ食鹽水又ハ過酸化水素水ニテ洗滌シ膿瘍嚢ヲ搔把シタル後僅ニ沃度「ア

リセロール」ヲ塗布ス

(2) 再植齒ノ準備 齒冠部ト根端部トヨリ穿孔シテ初メ過酸化水素水後二十%「チモール」酒精溶液ヲ以テ消毒シ根管充填並ニ窩洞充填後根端部ノ膿瘍ヲ把シ根面ヲ滑澤トナシ即時又ハ三四日ヲ經テ再植スルモノナリ、後法ヲ可トスト云フ

(3) 齒牙ノ植立及固定 準備ヲ終レル齒牙ヲ舊齒槽窩ニ復歸シ帶環、塗蠟絹絲又ハ洋銀線ニテ隣接齒ニ固定ス其期間ハ約數週ヲ要スサレド下顎大白齒ニシテ對向齒ヲ有スル際ハ固定法ヲ省略シ得ルコトアリ

(4) 後處置 再植後ハ一兩日多少ノ疼痛ヲ伴フガ故ニ冷電法ヲ施シ且「ピラミド」又ハ「アンチピリン」ヲ與フ、尙防腐性含嗽料ヲ用ヒ局所ニハ過酸化水素水ノ洗滌沃度「グリセロール」ヲ塗布ヲ行フベシ、然ル時ハ約二週日ニシテ固植スルニ至ル

五 美觀的矯正手術

齒瘻ノ治癒後ニ於ケル顔面皮膚ノ陷凹ニヨル醜貌ハ先ヅ顎骨ニ附引附着セル部分

ヲ切除シ創縁ヲ充分ニ周圍ヨリ剝離シタル後絹絲ヲ以テ皮膚間縫合ヲナス事ニヨリテ矯正シ得ベシ

大體的拔牙術ノ適應症及禁忌症如何

一 適應症 大凡次ノ如シ

1 齶蝕ニ因ル硬組織ノ崩壞度著クシテ既ニ充填法乃至繼續法ニ適セザル所謂殘根ノ状態トナレルモノ

2 齒槽膿漏等ニヨリテ齒槽ノ萎縮程度著シク治療ニ依リテ骨植ヲ恢復セシメ得ザル者

3 慢性齒槽膿瘍乃至肉芽腫等ニテ齒牙ノ保存療法無効ノ者

4 髓室床底乃至根管壁穿孔等ニテ齒牙ノ保存ノ見込ナキ者

5 急性顎骨々髓炎又ハ骨膜炎ニ際シ拔牙ニヨリテ排膿ヲ企圖セザレバ危險ナル場合

6 上顎竇蓋膿症ノ原因ヲナセル齒牙ハ治療上拔牙ヲ必要トスルコトアリ

- 7 埋伏齒ニシテ化膿、神經痛乃至囊腫ヲ惹起セルモノ
 - 8 過剩齒ニシテ齒列不正ノ原因ヲナセル者又ハ外親ヲ毀損スルモノ
 - 9 位置異常ノ齒牙ニシテ既ニ矯正ノ時期ヲ經過セルモノ
 - 10 外傷ヲ受ケタル齒牙ニシテ保存療法無効ノ程度ノ者
 - 11 義齒調製上拔去ヲ可トスルモノ
 - 12 吸收不全ノ乳齒又ハ化膿性炎ニ陥リテ永久齒々芽ニ障害ヲ及ボス乳齒ハ之ヲ拔去スルヲ可トス
- 禁忌症 左ノ如シ
- 1 止血困難ナル出血ヲ來ス疾患 血友病、白血病、假性白血病、惡性貧血、壞血病、紫斑病、及動脈硬變症等ニ陥レル者ハ一般ニ止血困難ナル出血ヲ來スコト屢々ナリ、故ニ拔齒等ハ可及的避クルヲ可トス、月經時モ亦略ホ同様ナリ從ツテ延期スルヲ得策トス
 - 1 頓死 心臟病者又ハ酒客ハ往々頓死ヲ來スコトアリ注意ヲ要ス
 - 3 妊娠時 ハ腦貧血、震盪症乃至流産等ヲ來ス恐レアリ故ニ是亦避クルヲ可トス

- スサレド堪エ難キ劇痛アリテ不眠數日ニ及ブガ如キ際ハ充分ナル注意ノ下ニ拔去スルヲ可トス
- 4 授乳期 拔齒ニヨリテ乳汁分泌ノ歇止スルコトアリ
 - 5 腦貧血ヲ起シ易キ状態 連日ノ齒痛、不眠、過勞等ハ腦貧血ヲ起シ易キガ故ニ注意ヲ拂フベシ
 - 6 震盪症ヲ起ス疾患 心臟疾患、ヒステリー、神經衰弱、等ニ陥レル者ハ拔齒ヲ避クルヲ可トス、癲癇患者ニアリテハ拔齒時癲癇發作ヲ招來スルコトアリ又其用意ヲ必要トス
 - 7 急性炎症狀劇甚ナル時期ニ拔去ヲ施行セバ劇痛ヲ貽スコト屢々ナリ故ニ先ヅ消炎法ヲ講シテ炎症々狀幾分緩解セシ後ニ拔去スルヲ可ト云フモノアリ、サレド拔去セザレバ重態ニ陥ルノ恐レアル時ハ格別ナリ

○根管消毒法ヲ説明セヨ

腐敗髓又ハ齒槽膿瘍等ニ際シテ根管(髓腔)内乃至壁中へ侵入セル細菌並ニ其産生物ヲ消毒センガ爲ニハ大約左ノ如キ順序方法ヲ以テ處置スルモノナリ

- 一 髓室ノ穿通
- 二 防濕法施行
- 三 髓室内容物ノ除去 「アンチフォルミン」ヲ髓室内へ一ニ滴滴下シ髓室内容物ヲ溶解セシム此際内容物ノ除去ヲ迅速且完全ニ進捗セシメンガ爲メニハ探針ヲ以テ徐ロニ攪拌スルノ要アリ、此間「アンチフォルミン」潤濁セバ拭去シ新鮮ノモノト反復置換シテ最早潤濁セズ清澄ニ止マルニ及ンテ拭去ス然ル後過酸化水素水(「パイロゾン」)ヲ滴下シテ「アンチフォルミン」ノ「アルカリ」性ヲ中和シ他方清掃消毒ヲ完全ナラシム、次デ

四 「フォーモクレゾール」ヲ綿球ニ浸シテ根管入口部ニ貼シ「セメント」ヲ以テ密封シ一乃至三日間根管内及壁中へ侵入セル細菌ヲ消毒ス

或ハ又「ヨード」丁幾ヲ浸シタル綿球ヲ根管入口部ニ貼シ熱風ヲ送りテ「ヨード」ヲ根管内へ充分竄入セシメ更ニ「チモール」酒精綿球ト交換シテ熱風ヲ送りテ更ニ「チモール」ヲ根管内へ竄入セシメ上部ヲ「サングラック」ニテ封塞スルモ可ナリ

五 一程度迄消毒セラレタル根管内容物ヲ「アンチフォルミン」ヲ以テ溶解除去シ次テ過酸化水素水ニテ洗去シ乾燥シテ後「ヨード」ヲ竄入セシムルカ、「モディファイド、フォーモクレゾール」ヲ貼用スルカ又ハ「チモール」酒精ヲ用ヒテ髓腔ノ深部乃至壁中ノ細菌ヲ撲滅セシム
以上ノ方法ニ由リテ後何等ノ自覺的症候ヲ訴ヘズ根管内ニ膿汁乃至其他ノ滲出物發現セズシテ乾燥状態トナルニ及ベバ根管充填法ヲ施行スルヲ要ス

○豫防擴大法ニ就テ説明セヨ

高洞ノ外形設定ニ方リテハ蝕蝕ノ再發ヲ豫防センガ爲ニ單ニ硬組織ノ病竈部ヲ除去

スルニ止マラズ往々尙周圍ノ硬固部ヲモ剔刮シテ高縁ト充填物トノ接際ヲ安全領域
 マテ延長セシムルコトアリ之レヲ豫防擴大法ト云フ、而シテ其ノ擴大程度ハ主ニ病
 竈ノ存在部位、範圍及ビ病勢ノ緩急等ヲ顧慮シテ決定スベキモノナリ

一 齒頸部ニ及ベル齲蝕 ハ其ノ齒頸窩縁ヲ齒齲縁下マテ擴大シ以テ高縁ト充填物
 トノ接際ヲ齒齲ニテ保護セシムベシ

二 隣接面齲蝕 ハ齒齲縁下ニ擴大スルハ勿論、尙唇頰及ビ舌側ニモ自淨作用ヲ受
 ケ易キ部分マテ延長セシムルヲ要ス

三 咬合面ノ發育溝ニ起始セル齲蝕 ハ病竈ニ接續セル溝及小窩ヲモ可及的外形中
 ニ編入スルヲ可トス

豫防擴大ニ方リテハ故意ニ硬固牙質ヲ剔刮シテ之レヲ犠牲トナスノミナラズ齒牙
 ノ器械的抵抗ヲ減少シ且ツ患者ニ剔刮時ノ痛苦ヲ與フルガ故ニ可及的少量ニテ止
 ムルヲ要ス、而シテ剔刮量ノ加減ハ一ニ齲蝕ノ性質ニ準據スルモノニシテ一般ニ
 慢性症ナル時ハ少量ノ剔刮ニ止メ之レニ反シテ急性症ナル時ハ稍々多量ヲ犠牲ト
 ナササル可カラズ

欠

欠

藥物學

○鹽酸「コカイン」ノ性狀生理的作用及齒科醫治應用如何

一 性狀

白色小葉狀又ハ稜柱狀結晶乃至結晶性粉末ニシテ無臭、苦味ヲ有ス、水或ハ酒精ニ溶解シテ中性ヲ反應ス 極量 一回〇〇五 一日 〇・一五グラム

二 生理的作用

局所作用 「コカイン」ハ知覺神經ニ選擇的ニ作用ス故ニ混合神經ニ「コカイン」溶液ヲ作用セシムル時ハ先ヅ知覺機ヲ後、運動機ヲ奪却ス就中知覺機ニテモ痛覺最モ初メニ觸覺、味覺、嗅覺等ハ相亞イテ麻痺スベシ、鼻粘膜又ハ喉頭粘膜ニアリテハ知覺機ト共ニ反射機ヲモ喪失セシム
粘膜又ハ創面ニ「コカイン」溶液ヲ塗布セバ速ニ知覺麻痺ヲ招來ス然ルニ健康皮

膚ハ角化層アリテ薬液ノ竄透ヲ妨グルガ故ニ鈍麻セラレズ又「コカイン」ハ神經鞘ヲ經テ神經内部ニ竄透シ得ルガ故ニ神經周圍注射法ニテモ亦奏効ス
 「コカイン」ニヨル知覺麻痺ハ應用後數分ニシテ始マリ約二三十分間奏効ス但シ藥効時間ハ局所ノ血管ノ貧富及薬液ノ濃度等ニヨリ一様ナラズ一般ニ血管富饒ノ部ハ速ニ藥効消失スルモエスマルロ氏驅血帶又ハ「アドレナリン」ヲ併用シテ局所ノ貧血ヲ企圖セバ藥効持久ス又濃厚液ハ稀薄液ヨリ藥効ノ持續長シ
 「コカイン」ハ藥効消失後ニ障害ヲ貽スコト殆ンド無シ
 尙「コカイン」ハ神經ノ外ニ血管收縮作用アリ是レ「コカイン」ガ交感神經末梢ヲ刺戟スルニヨル
 吸收作用 「コカイン」吸收セラル、時ハ中樞神經系ニ猛烈ニ毒作用ヲ逞フス故ニ拔齒又ハ創面塗布ニ方リテ稍大量吸收セラル、トキハ往々急性中毒ヲ招來ス一%「コカイン」溶液ニ「ブプラレニン」ヲ加ヘタルモノハ五耗(〇〇五)マデ一%溶液ノ百耗(〇〇一)ハ安全域ナリト云フモ一%以上ノ濃厚液ナル時ハ既ニ極量ニ及バザル以前ニ急性中毒ヲ招來スルコト稀ナラズ

急性中毒症狀 輕症ハ不安、思慮錯雜、失笑(「コカイン」鹼酞)顔面蒼白、眩暈、嘔吐、四肢震顫等ヲ惹起ス是レ大脳ノ興奮ト腦ノ血管ノ收縮ニ基クモノナリ
 重症ハ無意識、瞳孔散大、眼球突出、呼吸促進、困難、テタヌス様痙攣ヲ來シ遂ニ呼吸麻痺ニヨリテ致死ス
 「コカイン」ノ迅速ナル吸收ニ際シテハ中毒症狀モ亦速ニ經過スルモノニシテ患者ハ直ニ無力狀態ニ陥リ顔面ハ高度ニ蒼白トナリ數分間ヲ出デズシテ痙攣ヲ前驅シテ致死ス拔齒時乃至口腔粘膜ノ創面應用時ハ薬液一般ニ濃厚ナルガ故ニ危險多シ是レ慎重ノ注意ヲ拂フヲ要スル所以ナリ
 救急療法 「コカイン」ノ急性中毒時ニハ患者ヲ先ヅ平臥セシメテ頭部ヲ稍下垂セシメ且顔面ニ冷水ヲ灌ギテ頭部ヘノ血行ヲ旺盛ナラシメ、腦貧血ヲ恢復セシメ且窓ヲ開キテ換氣ヲ良クスベシ尙血管緊張薬タル亞硝酸「アミール」(一二滴)ヲ吸入又ハ甘硝石精(一〇—二〇滴)ヲ内服セシメ時ニ強心劑トシテ十%樟腦「オレーフ」油液(一滴)ヲ注射シ又ハ葡萄酒、ブランデー等ヲ内服セシメテ救治ス

既ニ呼吸閉止セル時ハ人工呼吸法ヲ試ムルヲ要ス
慢性中毒症狀「コカイン」ハ「モルヒネ」ト同様習慣作用ヲ現ハシ易シ故ニ連用
セバ「コカイン」嗜欲ヲ起シ且一瓦ノ大量ニ堪ユルニ至ルサレド慢性中毒ニ陥ル
時ハ精神錯亂、榮養障礙、疲削等ヲ招來スルニ至リ豫後ハ「モルヒネ」中毒ヨリ
一層不長ト云フ

三 齒科醫治應用

- 一 拔齒其他ノ手術時ニ局所麻醉藥トシテ用フ
 - 二 齒髓炎ノ鎮痛、口腔潰瘍、象牙質知覺過敏ノ鈍麻ニ用フ
 - 三 印像採得時口腔粘膜ノ知覺鈍麻等ニ應用セラル
- 處方例 一二ヲ示セバ左ノ如シ
- 鹽酸「コカイン」 〇・三 食鹽 〇・二五 滅菌蒸餾水 三〇・〇
使用時本液一坵ニ鹽化「アドレナリン」液一滴ヲ加ヘテ用フ(拔齒用)十一二十%
液(粘膜塗布用)
粉末ノマ、石炭酸ト配伍シタルモノ(齒髓炎鎮痛用)

○亞砒酸ノ性状、生理的作用及齒科醫治應用如何

一 性状

白色ノ瓷質樣又ハ硝子樣ノ塊片乃至粉末ニシテ臭味共ニ無シ沸湯ノ十五分、「グリ
セリン」ノ五分ニ溶解シ、酸又ハ「アルカリ」ニモ溶ケ易シ、サレド水乃至酒精ニ
ハ難溶性ナリ、極量一回〇・〇〇五グラム一日〇・〇一五グラム

二 生理的作用

- (1) 局所的作用 原形質毒トシテ生活組織細胞ヲ極メテ緩徐ニ壞死ニ陥ラシム、
今亞砒酸糊劑ヲ以テ失活法(無痛の抜髓時期)セラレタル齒髓ヲ鏡下ニ檢スルニ
通常左ノ如キ變化アリ、即チ齒髓ハ糊劑ニ接觸乃至接近セル一小部分ノミ壞死
ニ陥レドモ、他ノ大部分ニ於テハ一般ニ血管高度ニ擴張充血シ尙諸所ニ出血腫
ヲ示セリ、其他少數ノ圓形細胞浸潤及漿液滲出等アリ、神經纖維自己ニ於ケル
變化ハ未詳ナリ、故ニ此際ニ於ケル知覺喪失ノ理由ハ今尙不明ナリ
- (2) 吸收作用

a 極メテ少量(〇、〇〇一〇、〇〇五)ヲ持續性ニ服用セバ榮養狀態ヲ佳良ナラシム、而ガモ本品ニハ習慣作用アリ、然ルニ

b 稍大量ヲ反復使用セバ慢性砒素中毒ニ陥リ胃腸カタル、結膜カタル、頭痛、多發性神經炎、殊ニ運動神經麻痺、發疹、色素沈著及腎臟炎等ヲ惹起スルニ至ル

c 大量(〇、〇五以上)ヲ用フレバ急性砒素中毒ニ陥ルモノナリ、是レニ麻痺型ト胃腸型トアリ、後者ノ方多シ麻痺型ニ在テハ急劇ニ虛脱、意識喪失、痙攣及昏睡狀態トナリ胃腸型ニアリテハ劇烈ナル吐瀉(コレラ様下痢)ヲ惹起シ且ツ腹痛ヲ訴ヘ數時間乃至二三日ヲ出デズシテ致死スルヲ常トス

三 齒科醫治應用 齒髓ノ失活ニ糊劑トシテ用フ

亞砒酸ニ鹽酸「コカイン」又ハ「ノグオカイン」ヲ混和シ、之ヲ「グリセリン」ニテ練和シ且ツ煤煙ヲ混入シテ用フ、斯ノ如キモノニ石絨纖維ヲ混シ(失活用纖維)或ハ吸墨紙小板ニ浸漬セシメタルモノ(失活用圓板)ヲ齒髓失活料トシテ用ヒラルトコトアリ

技 工 學

〇全部及局部義齒ニ於ケル陶齒選擇法如何

I 全部義齒ニ於ケル陶齒ノ選擇

陶齒選擇ニ方リテ考慮ヲ要スベキハ大サ、形態、及色彩ノ三點トス何レモ天然齒ヲ殘存セル場合ハ之レニ準據スルヲ至便トスルモ若シ無齒顎ナル時ハ稟賦等ヲ斟酌スルヲ要ス

一 大サ 陶齒ノ大サハ主トシテ齒槽彎ノ大サ、咬合床上下ノ描記線等ニ從ツテ決定ス

1 齒槽彎ノ大サ 天然齒脫落セバ齒槽、齒眼モ亦廢用萎縮ニ陥ルガ爲ニ齒槽彎ハ縮小スルモノナリ其程度ハ上顎ニ於テ著シク下顎ニ於テハ然ラズ故ニ下顎前突ノ觀ヲ呈スルニ至ル之ガ爲ニ此際使用スベキ陶齒ハ天然齒ヨリモ稍小ナルモノ(殊ニ白齒)ヲ用ヒ且智齒ハ省略スルヲ通規トス

二 形態

- 2 咬合床上ノ描記線 咬合床上ニ描記セラレタル唇線、口角線、第二大臼齒遠心線ニヨリテ陶齒ノ大サヲ決定ス即チ正中線ト口角線間ニ切齒及犬齒ヲ容レ上唇線ヲ其齒頸ノ位置トナシ口角線ト遠心線間ニ大小臼齒ヲ容ルベシ、元來各陶齒製造所ヨリ販賣セラレ、解剖的形態ヲ有セル陶齒ハ各齒ニ於ケル大小及色彩等ハ一定ノ標準ニ從ヘルガ故ニ劃線標準ト陶齒色彩標本ニ適合セル陶齒ヲ使用セバ可ナリ
- 1 容貌 顔面ノ輪廓ニ一致セルモノヲ擇ブベシ、一般ニ女子ハ男子ヨリ温和ナル形態ノモノヲ可トス
- 2 齒槽吸收ノ程度 ニ從ヒ無齦又ハ有裝陶齒ヲ撰擇シ或ハ他材品ニヨル齦ノ補綴ヲ決定ス
- 3 顎ノ對向關係 上下ノ顎間距離、上顎乃至下顎前突時ニモ斟酌ヲ要ス例之顎ノ接近セルモノニハ鞍狀陶齒ヲ用ヒ、上顎前突ニハ齒槽短ク唇面平坦ナルモノヲ下顎前突時ハ上顎陶齒ノ齒槽部長ク唇面豐隆セルモノヲ選ブガ如シ

4 年齡

- 老人ニ於テハ必要ニ應ジ齒根ノ一部ヲ露出セシムルコトアリ
- 3 色澤 顔面ノ皮膚ト調和セシムベシ例ヘバ皮膚色淡キモノニハ陶齒モ亦淡キ色彩ノモノヲ可トスルガ如シ尙一般ニ老年者ハ壯年者ヨリモ暗色ノモノヲ適當トス
- 色彩ノ決定ハ陶齒ノ色彩標本ヲ用フベシ、此者ハ中切齒ヲ標準トセルモノニシテ水ニテ濕シテ試適スルヲ要ス
- 局部義齒ニ於ケル陶齒ノ選擇
- 通常殘存齒ノ大サ形狀及色澤ニ準據セバ可ナリ

II

表紙



受験生に與ふ

三 試験委員

附

録

1

最後は近けり 愈々開業試験も山が見へて來た大正十年で一先づ一段落を告ぐる事と成るかも知れぬ、或は兩三年間位の延期に成るかも知れぬ、而し乍ら現今受験しつゝ有る者が未だく遠ひ未來の延期などを夢見る様では到底成業の見込は無い、試験は何處迄も大正十年限りいや今度限り臨時も無ければ手心もない今まで通りである云ふ決心を以て一心不亂の勉強を希望して止まない。

受験資格を有する者は僅に四十%なり 現今の受験者の學力は確かに十年前の夫れに比すれば一般に進歩向上の跡を見るも未だ正直に告白すれば其率六十%は受験資格を有せざる哀れの人々である吾々は斯かる人々に一言したひ、いや吾々が云ふ迄も無く自己に於て既に其器ならざるを知る人多からんも斯かる人々が貴重なる時間と金を費して受験するは小は自己の爲め大は國家の爲め多大の

損失である、願はくは速に他の職業に方針を一變せられん事を希望す、之れ一面齒科社會の爲めにも至大の幸福である。

學說答案上の注意

試験問題に無理はない 近來は試験毎に受験者の数は増加するばかり最近は一回二千を越して居る試験問題も毎回様々の非難が出るが試験委員は試験前必ず會合して問題の會議をやる、そしてあつてもない、こうでもない、さ色々受験者の立場になつて同情にくし解し易き様誤らざる様に問題を訂正して居る從てそう非難さるゝ様な問題は無い筈である、若し有りとするれば多くは夫れは受験者の學力不足に起因しはせずや。

答案は簡單に要點を記せ

答案は簡單明瞭とは誰れも云ふ言葉であるが實際に必要な事である先頃十五枚と云ふ長答案に會した事がある、最も之は一行置きに一寸角大の字で書いて在た答案を草紙と間違ひて居るのでは無いが、字は明瞭に読み易く書く事は最大の必要條件であるが一問題に十五枚も書かれては試験委員も堪

らない斯くなれば一人で二問題三十枚二千六萬枚の答案を調べなくてはならぬ而も大抵二回は読み直す様にして居るから之に費す時間は多大のものである、近頃答案の最初に殊更に第一問何々を先づ其問題を書き尚答案と又一行を費し、次で本文に入る事が流行して來た、而し之は不必要な事で既に二問と答案用紙に書入れてはあり答案は出題者に依て採點さるゝ以上一々問題を寫す必要は無い御互に時間潰しな事である。

又何れの問題でも主要な項目は左様に多量のものでは無い三點か四點所、紙數にすれば一枚乃至二枚、半枚位ひで澤山なものもある、三枚と云ふのは先づ有るまい五枚六枚と書いて得たる連中は頭腦の統一しない或は書籍を單に鵜飲にして咀嚼し得ざる連中で何れも發表の結果を見て嗚呼の聲を發する輩である。

所謂要點とは何ぞや

近頃の學生は無暗に學者振りたがる、早い話が茲に「齒牙腫」に就て記せと云ふ問題がある此問題の要點即ち答案すべき點は何れより見るも原因、種類、症候、病理解剖、診斷、療法である然るに齒牙腫の原因は不明である從て分類法も一定しない現今の學生の多くは其分類にのみ主力を費して居る曰

くバルチユか何ぞトームスか何曰く何、何ぞ其様な事ばかり二枚も三枚も書いて居る而し其れも間違なく整然たるものなれば結構であるが斯の如き答案の結末は何れもぐらゝである、折角立派に書けた初めの分類を破壊する様な答案が多い之れ畢竟學者振らん已れは斯く多く廣く讀んで居ると云ふ事を表白したいとするの失敗である、試験委員は一度答案に接すれば其人の能力は直に了解し得、何にも誰氏曰くく、無くとも結構である而し現今の學者間にも書籍中に自己の博學を誇らんとめか盛に何年何月の誰何の説あり次に何氏何の説ありと説の陳列會をして居るのである、之も必要には相異なるが可成的論文か研究報告に譲つて學生の爲めには要點のみを容易に區別し得らるゝ様統一的に書いて欲しい。

實地試験に於ける注意

大阪方に劣る東京の實地生 學說試験は何と云ふても東京の學生が成績佳良であるが實地に於ける實力は大阪の方が稍々舊式ではあるが眞面目である寧ろ優れて居らせぬが、東京の學生は新らしき氣分は確かに充實して居るが一方には又

無暗に試験委員を誤覚化そうく云ふ事のみ苦心して居るものがある、實に馬鹿げた話であるが又斯様な方面に重きを於ける會合なども有ると云ふ事である、自分の將來を思ふ受験生、受験生を永遠の幸福に導かんことを欲する教師は宜敷實際に眞面目に後日社會に立つて天晴天地に慚愧せざる「デンチスト」たらん事に重きを置かれん事を希望す。

試験方法にも不備の點あり

而し乍ら一方試験の方法にも不備の點は澤山ある而し現今の實地試験は昔日の夫れに比すれば棹頭一步を進めたるの感あれど尙改良すべき點は多々ある、第一に委員總てが心の一致を欠いて居る事である最も之は追々何ぞか成る事と思ふが其れより大切な試験が模型試験である、米國の如く一人の患者を數日間連續的に治療し其成績に依て採點するならば理想的で有るが相當の手腕ある者も模型の爲め勝手が違ひ思はぬ失敗を招致する事もある、又技工にしても日常金、銀等には相當の経験ある者も試験場にて應用する銅銀等にては面喰ふ事も有るに違ない、而し斯かる試験制度がある以上止むを得ない、氣の毒ながら特に此の方面にも注意し研究する必要がある(文責編者)

附 錄

願書ニ關スル件

齒科醫術開業試驗ヲ受ケルニハ願書ヲ必要トス其書式ハ第一寫眞、第二名箋、
三願書、第四履歷書、第五謄本ノ順序ナリ
(1) 名箋ハ本籍居所族稱姓名生年月日受驗種類受驗地ヲ記入ス
(2) 願書式 (用紙美濃紙)

齒科醫術開業試驗願

收入
印紙

本籍
居所
族稱

氏

名

年月日生

出願試驗ノ種類(齒科)學說試驗又ハ實地又ハ(齒科學說)試驗 試驗ヲ受ケヘキ
實地)試驗

地何地

右試驗相受度別紙履歷書戶籍謄本及寫真相添此段相願候也

年月日

右氏

名

(3) 履歷書式 (用紙美濃紙)

履歷書

族籍

氏

年月日生

名

受驗資格

一大正何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣何市郡何學校ニ於テ又ハ何誰ニ就修業

一大正何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣何市郡何病院ニ於テ又ハ開業醫何キ何科實習

一大正何年何月何地ニ於テ前期試驗(後期學說試驗)ヲ受ケ及第證書

試驗資格以外ノ學業

一大正何年何月何府縣何市郡小學校ニ於テ尋常高等小學校卒業又ハ何學年修了
一大正何年何月何府縣何中學校ニ入リ何年何月卒業又ハ第何學年級修了
一大正何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣何市郡何學校ニ於テ又ハ何誰ニ就キ何修業

職業

一大正何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣何市郡ニ於テ何職ニ從事シ又ハ何業ヲ營
右之通相違無之候也

族籍

氏

名

前期試驗資格ノ確實ナルコトヲ保證ス

- 大正何年何月何日
何學校長又ハ教師 氏 名
- (4) 寫眞ハ其裏面ニ撮影年月日(受験前六ヶ月以内ノ撮影ニ限ル)受験ノ種類ニ稱姓名生年月日受験地ヲ記入スルコト
- (5) 謄本ハ(受験前六ヶ月以内ニ得タルモノニ限ル)抄本ニテモ可ナリ
其他ノ注意ニ學說ト實地試驗ト並願ノ場合ハ受験料九圓學說ニミハ六圓五十錢實地ノミハ六圓何レモ收入印紙ニテ必ズ自ラ消印セザルコト尙ホ並願ノ場合ニハ實地試驗地ヲ必ズ記入ノコト

大正六年十二月十八日 初版發行
大正七年三月三日 訂正再版發行
大正七年八月八日 增訂再版發行
大正八年二月廿五日 訂正四版印刷
大正八年三月一日 訂正四版發行

正價金貳圓也
郵税金八錢

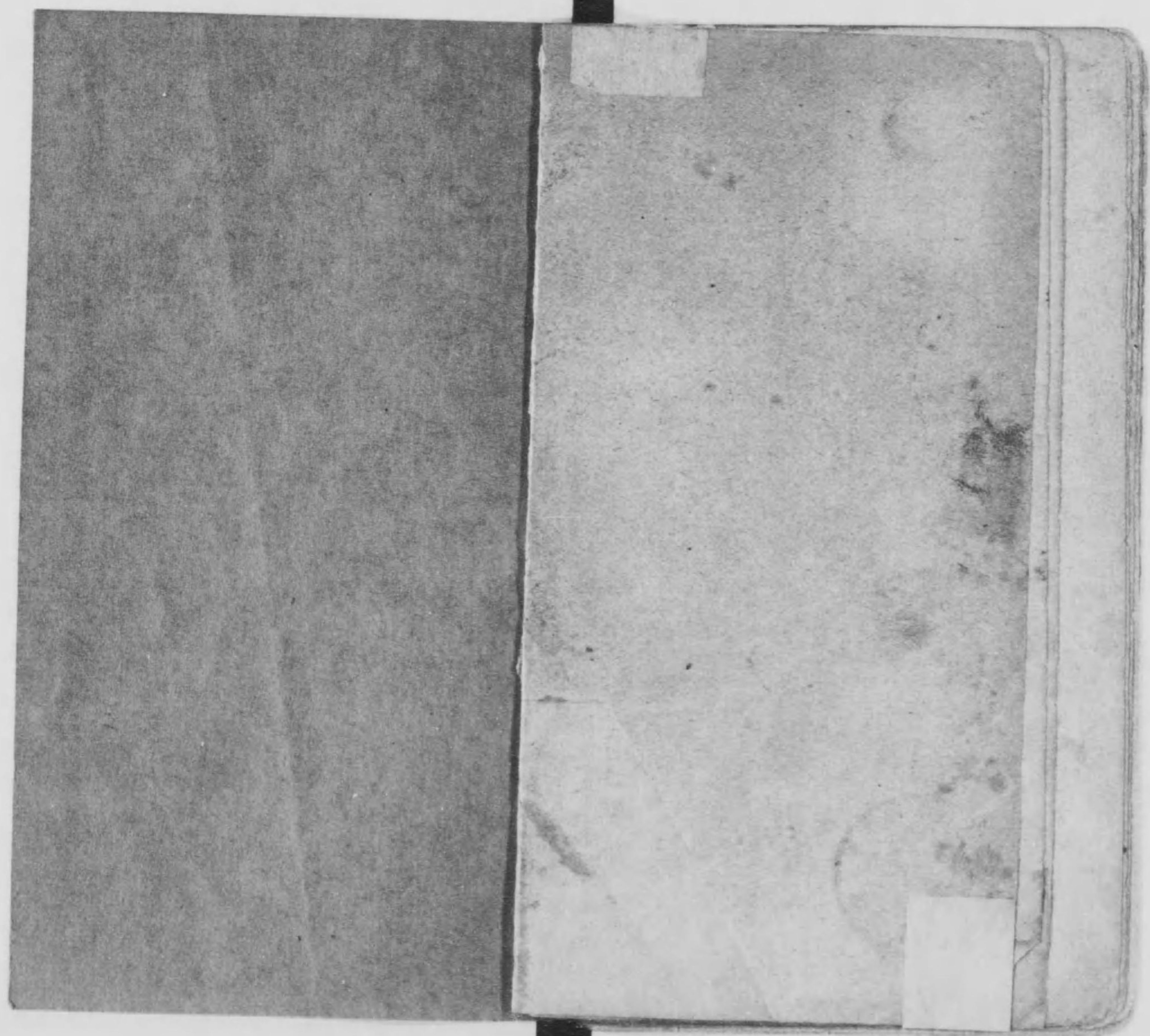
復製不許
模範齒科答集案

編纂者 北村宗一
發行者 淺井光之助
印刷者 東京市神田區橋本町一丁目三番地 小池直次郎
印刷所 東京市神田區橋本町一丁目三番地 小池活版所

發行所
支店

東京市本郷區本富士町二番地
振替東京五七八番
振替東京二九二番
文光堂書
厚生堂書





終